

科目名	人間関係とコミュニケーション						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮本賀世子・江下 馨		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	専門学校にて教鞭経験(宮本) 福祉施設で福祉業務経験(江下)		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	生活支援は、介護職と利用者、その家族との関係作りから始まる。 前期、介護職として人間を理解する必要性を学び、後期、人間関係を構築する必要性、関係作りの為の技法を演習を通して習得する。 また、自身の傾向を理解し、アプローチを工夫することで利用者の生活の質が大きく左右されることを知る。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				サービス接遇検定3級に合格する	
	○					国家資格問題に解答出来る	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 人間の理解 サービス接遇受験ガイド 3級 サービス接遇検定実問題集3級						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	I OR 介護サービスとサービス接遇を学ぶ意味・必要な要件・従業要件 国家試験問題 過去問と解説					
	2	II 専門知識 サービス知識・従業知識				授業ノートに作成したものを見直す。	
	3	III 一般知識 社会常識(ことわざ・慣用語・伝統的な呼び方・物の数え方)時事問題				授業ノートに作成したものを見直す。	
	4	IV 対人技能 話し方・言葉遣い・練習問題と解説と事例検証				授業ノートに作成したものを見直す。	
	5	IV 対人技能 人間関係・接遇知識・身だしなみ・復習問題と過去問演習と解説				授業ノートに作成したものを見直す。	
	6	V 実務技能 環境整備・金銭管理・社交業務・復習問題と過去問演習解説				誤った問題の復習をしておく	
	7	サービス接遇検定プレテスト(過去問使用)及び解説				誤った問題の復習をしておく	
	8	V 実務技能 問題処理 過去問題点記述				誤った問題の復習をしておく	
	9	V 実務技能 記述問題及び一般常識確認テスト				確認テストの復習をしておく	
	10	テキスト I～IIIの復習と要点整理及び確認テスト及び解説				確認テストの復習をしておく	
	11	テキストIV～Vの復習と要点整理及び確認テスト及び解説				確認テストの復習をしておく	
	12	国家試験問題 過去問と解説				確認テストの復習をしておく	
	13	テキストの復習と要点整理及び確認テスト(過去問)及び解説				確認テストの復習をしておく	
	14	テキストの復習と要点整理及び確認テスト(過去問)及び解説				試験問題の解説ができるようになっておくこと	
15	国家試験問題 過去問と解説						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)サービス接遇検定 模擬問題を随時実施する (3)サービス接遇検定3級を受験する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト	◎	◎				45%
	宿題・レポート	○	○				5%
	発表・作品						
履修上の注意	授業ノートを作成する。小テストを再確認する。						

科目名	現代社会と福祉						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	伊東良輔		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	介護実習普及センターにて10年 独立型社会福祉士として5年		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	社会福祉の基本を学び、日本・海外の福祉の成立過程を知ることで現代社会の福祉の本質を考える。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会福祉を学ぶ意義を自らの言葉で説明することができる。	
		○				社会福祉に関する基礎的知識を身に付け、実践現場で活躍できるようになる。	
				○		社会人として必要な態度や言葉遣いを意識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	福祉政策の論点 I			前期で学んだ内容をまとめておく		
	2	福祉政策の論点 II					
	3	福祉政策における政府の役割					
	4	福祉政策における市場の役割					
	5	福祉政策における国民の役割					
	6	福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価					
	7	福祉共有部門					
	8	福祉供給過程					
	9	福祉利用過程					
	10	福祉政策と教育政策					
	11	福祉政策と住宅政策					
	12	福祉政策と労働政策					
	13	相談援助活動と福祉政策の関係					
	14	相談援助活動と福祉政策の関係2					
15	まとめ						
評価方法	出席状況、授業への参加意欲、定期試験(筆記)を実施する。 下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	授業態度				○		20%
履修上の注意							

科目名	コンピュータ						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	平野 久美子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	カルチャー、市民センター インストラクターとして勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	Excel、PowerPointの基本操作から学び、表計算、プレゼンテーションについて、知識を習得していく。 複数のアプリ間でのデータを共有し、応用できる力を身に付け、実践的に役立てていけるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Excel、PowerPointなどを使用し、データ管理やプレゼンテーションを作成することができる	
		○				練習問題を解くことによって理解度を確認し、処理、作成ができる	
			○			ブラインドタッチを習得し、10分間で300文字以上の入力ができる	
				○		用途に応じて適切なソフトを使用し、報告書の作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	・FOM出版 よくわかるWord2016 & Excel2016 & PowerPoint2016 改訂版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Excelの概要・起動・画面構成・データ入力・オートフィル機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	関数・絶対参照・表の書式・行や列の操作・印刷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	グラフ機能の概要・円グラフ・縦棒グラフの作成				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	データベース機能の概要・データの並べ替え・抽出・条件付き書式				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	総復習				総合問題で復習します	
	6	Excelの表をWordの文書に貼り付ける				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	差し込み印刷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	Wordの文書をPowerPointのプレゼンで利用する				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	総復習				総合問題で復習します	
	10	総復習				テキスト、プリントなどで復習します。	
	11	試験(実技・筆記)					
	12	PowerPointの復習				総合問題で復習します	
	13	課題作成				実習報告書をPowerPointで作成するための資料収集と課題作成します	
	14	課題作成				実習報告書をPowerPointで作成するための資料収集と課題作成します	
15	課題発表						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)課題を作成し発表する。(3)定期試験(実技・筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	小テスト		○				15%
	宿題・レポート						
	発表・作品		◎		○		20%
	タイピング			○			15%
履修上の注意							

科目名	介護の基本 I						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期分)	担当者実務経験	福祉施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための科目である。「介護の基本 I」では、「介護福祉の基本となる理念」「介護福祉士の役割と機能」「介護福祉士の倫理」「自立に向けた介護」について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					「介護」誕生の社会的背景を理解し説明することができる。	
		○				介護の概念の変遷を理解しその時代の特徴について説明することができる。	
		○				社会福祉士及び介護福祉士法の定義、義務規定について説明ができる。	
		○				介護福祉士の倫理を理解し遵守の必要性を説明できる。	
	○		○			国家試験(模擬)問題の解説ができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央法規 介護福祉士養成講座4「介護の基本 I」 中央法規 介護福祉用語辞典 ・小六法 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護福祉士の倫理①				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	2	介護福祉士の倫理②				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	3	介護福祉の役割と機能(地域包括ケアシステム)				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	4	介護福祉の役割と機能(介護予防)				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	5	介護福祉の役割と機能(医療的ケア)				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	6	介護福祉の役割と機能(人生の最終段階の支援)				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	7	災害時の支援①				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	8	災害時の支援②				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	9	介護福祉士養成カリキュラムの変遷				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	10	介護福祉士を支える団体				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	11	自立支援とエンパワメント				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	12	ICF①				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	13	ICF②				授業範囲に該当する部分を読んでおく。	
	14	後期試験対策①					
15	後期試験対策②						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験は(筆記)試験とする。(3)ノート提出を実施する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	確認テスト	○	○				30%
	ノート提出	○	○		○		20%
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ノート・プリント整理を行っておく(確認実施)。 確認テストについては、必ず提出すること。 授業中の居眠りについては欠課とする。 						

科目名	介護の基本Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期分)	担当者実務経験	福祉施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための科目である。「介護の基本Ⅱ」では、生活を支援するという観点から、フォーマル及びインフォーマルな支援・地域連携・リスクマネジメント・多職種連携・労働環境などを理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					専門用語の意味を理解し説明することができる。	
		○				利用者の個々の生活を理解し、生活支援との結びつきを説明できる。	
		○		○		メンバーと協力しグループワークに取り組み、資料の作成全体発表ができる。	
	○	○				国家試験(模擬)問題の解説ができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・中央法規 介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」 ・中央法規 介護福祉用語辞典 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	前期授業の振り返り					
	2	生活を支えるフォーマルサービス(高齢者)				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	3	生活を支えるフォーマルサービス(障害者)				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	4	生活を支えるインフォーマルサービス				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	5	地域連携				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	6	介護における安全の確保				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	7	リスクマネジメント①				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	8	リスクマネジメント②				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	9	リスクマネジメント③				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	10	身体拘束				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	11	福祉サービスに求められる安全・安心				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	12	事故防止のための対策				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	13	国家試験(模擬)問題				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
	14	国家試験(模擬)問題				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分	
15	後期試験対策				授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく。30分		
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験は(筆記)試験とする。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	確認テスト	○	○				30%
	ノート提出		○		○		20%
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート・プリント整理を行っておく(確認実施)。 ・確認テストについては、必ず提出すること。 ・授業中の居眠りは欠課とする。 						

科目名	コミュニケーション技術						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	尾中美穂・江下馨		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	レクリエーションインストラクター(尾中) 高齢者施設福祉事業所勤務実績(江下)		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答することができる。	
	○		○	○		実践演習で、目的や役割を理解したレクリエーションの実践ができる。	
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	レクリエーション実践 1					
	2	レクリエーション実践 2					
	3	家族とのコミュニケーション				当該項目内容を終了後に確認しておくこと	
	4	介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談技術				当該項目内容を終了後に確認しておくこと	
	5	介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談技術				当該項目内容を終了後に確認しておくこと	
	6	レクリエーション実践 3					
	7	レクリエーション実践 4					
	8	介護におけるチームのコミュニケーション 記録の技術				当該項目内容を終了後に確認しておくこと	
	9	介護におけるチームのコミュニケーション 記録の技術				当該項目内容を終了後に確認しておくこと	
	10	国家試験問題 解説 1					
	11	国家試験問題 解説 2					
	12	レクリエーション実践 5					
	13	レクリエーション実践 6					
	14	レクリエーション実践 7					
15	レクリエーション実践 8						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実践演習	◎	○	○	○		50%
	定期試験	○					50%
履修上の注意							

科目名	生活支援技術ⅡA(介護技術)						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期分)	担当者実務経験	福祉施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	・自立した排せつとは何かを理解し自立に向けた排泄介助の援助方法を習得するとともに、排せつに関する基礎知識を学ぶ。 ・清潔の保持のための全身清拭の意義と留意点を理解し、実際の援助方法を習得する。						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自立した排せつ介護について説明することができる。	
			○	○		排せつに関する援助を安全・安楽、プライバシーの保護に留意し行うことができる。	
	○	○				全身清拭の意義と留意点について説明することができる。	
			○	○		全身清拭の援助を安全・安楽、プライバシーの保護に留意し行うことができる。	
○	○				排せつ・全身清拭に関する物品・専門用語の説明ができる。		
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自立した排せつとは			教科書の該当範囲を読んでおく		
	2	排せつ方法の選択・排せつに関する福祉用具の理解			教科書の該当範囲を読んでおく		
	3	排せつのしくみ			教科書の該当範囲を読んでおく		
	4	トイレ・ポータブルトイレでの排せつの介護方法			教科書の該当範囲を読んでおく		
	5	立位パッド交換の介助			教科書の該当範囲を読んでおく		
	6	尿器差し込み便器での排せつの介助			教科書の該当範囲を読んでおく		
	7	おむつでの排せつの介助			教科書の該当範囲を読んでおく		
	8	実技試験①			教科書の該当範囲を読んでおく		
	9	実技試験②			教科書の該当範囲を読んでおく		
	10	頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁への対応			教科書の該当範囲を読んでおく		
	11	多職種連携			教科書の該当範囲を読んでおく		
	12	清潔の保持の介助(全身清拭の留意点)			教科書の該当範囲を読んでおく		
	13	全身清拭演習			授業内容の復習(演習用プリント)		
	14	授業内容の復習			授業内容の復習		
15	定期試験対策			授業内容の復習			
評価方法	(1)学期末定期試験(筆記試験)で評価。(2)授業内実技試験にて評価。(3)演習授業の際の援助者としての姿勢、態度、言葉使いを評価。 成績評価基準は、、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	実技試験			○			30%
	実習態度・身だしなみ				○		20%
履修上の注意	演習質の授業では、実習服を着用すること。清潔な身だしなみで臨むこと。実習服が準備できていない場合は見学とする。						

科目名	生活支援技術ⅡB						
科目名(英)							
単位数	4単位(2単位)	時間数	60(30時間)	担当者	江下 馨		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	高齢者施設 福祉事業所勤務実績		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識、技術を学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○	○	○	○		各単元の生活支援技術を安全安楽に行うことができる。	
		○	○	○		実施した生活支援技術の根拠を伝えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ 介護福祉士国家試験 過去問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	前期生活支援技術 確認				夏季休暇中に復習しておくこと	
	2	自立に向けた身じたくの介護 科目概要・着脱の意義、目的				演習内容を教科書と関連付けて確認すること	
	3	自立に向けた身じたくの介護 着脱の一連の動作				該当範囲を確認すること	
	4	自立に向けた身じたくの介護 前開きの上着介助・かぶり上着介助				演習練習を行っておくこと	
	5	自立に向けた身じたくの介護 ズボンの着脱介助				演習練習を行っておくこと	
	6	自立に向けた身じたくの介護 端坐位での介助 確認テスト				演習練習を行っておくこと	
	7	自立に向けた身じたくの介護 ベット上での着脱介助				演習練習を行っておくこと	
	8	自立に向けた身じたくの介護 確認テスト				出来るまで演習を行うこと	
	9	自立に向けた身じたくの介護 浴衣の介助					
	10	自立に向けた身じたくの介護 入浴、清潔保持の意義 一連の流れ				該当範囲を確認すること	
	11	自立に向けた身じたくの介護 個室での入浴介助				演習練習を行っておくこと	
	12	自立に向けた身じたくの介護 入浴演習 1				必要物品、手順を確認しておくこと	
	13	自立に向けた身じたくの介護 入浴演習 2				必要物品、手順を確認しておくこと	
	14	自立に向けた身じたくの介護 入浴の留意点					
	15	身じたくの介護 確認テスト				復習しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で実技テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	実技テスト		○	○	○		50%
履修上の注意	実技テストを欠席した場合は、別日に実施し評価を行う。 介護実習室にて身だしなみに不備がある場合は、一旦退室して整えること。改善されない場合は欠課扱いとなる。						

科目名	介護過程 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	江下 馨		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	高齢者施設 福祉事業所勤務実績		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	各領域で学んだ専門的な知識と技術を統合し、身の前の利用者に適切な支援を提供できる力を養う。講義内容と実習とを関連付けて、援助の根拠である利用者の状態理解に繋がられるよう事例を通し検討する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					実習 I (後期)10月、担当利用者の情報収集ができる。	
	○					実習 II、介護過程の展開方法を理解し、介護計画の立案できる。	
	○			○		グループで事例検討し、意見をまとめ発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護過程						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	介護過程とは 意義と目的 介護過程のプロセス			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	2	介護過程の全体像 生活支援における介護過程の必要性			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	3	アセスメントの視点			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	4	介護過程における対象施設			視覚教材はメモを取り、整理する事		
	5	アセスメントの実践 1 事例からみる情報収集①			視覚教材はメモを取り、整理する事		
	6	アセスメントの実践 2 事例からみる情報収集②					
	7	情報収集の視点 1 情報収集の方法、留意点			実習 I (後期)用紙持参		
	8	情報収集の視点 2			実習 I (後期)用紙持参		
	9	アセスメント 主観・客観的視点			実習 I (後期)用紙持参		
	10	アセスメント 解釈・関連づけ・統合化					
	11	アセスメント 解釈・関連づけ・統合化 必要な支援 優先順位					
	12	アセスメントの実践 1 長期、短期を捉えた視点			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	13	複合施設での介護計画の視点			前期の復習、試験対策		
	14	前期復習 確認テスト			実習 II 書類と関連付けること		
15	まとめ 解説 ノート確認			実習 II 書類と関連付けること			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)事例検討発表。(3)レポート提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	事例検討 発表	○	○		○		50%
履修上の注意	毎時間ファイリングを行う。事例検討は積極的に参加する。注意しても15分以上の著しい居眠り等がみられた場合は欠課とする。						

科目名	介護総合演習 I				
科目名(英)					
単位数	6単位	時間数	90(45時間)	担当者	大島夕子
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	福祉施設に介護福祉士として勤務
対象学科・学年	介護福祉科1年				
授業概要	本科目においては、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことを目的とする。各段階の実習ごとに設定された実習目標達成のために、実習前、実習中、実習後の学びを行う。				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
	○	○		○	
	○	○			
	○	○		○	
目標	自己の実習施設の施設概要について説明できる。				
目標	各段階における実習目標達成のための具体的な取り組みを整理し伝えることができる。				
目標	実習後、自己の実習を振り返り、目標の達成度、今後の課題を文章化できる。				
目標	実習後、実習報告会にて、実習の学びをまとめ発表することができる				
テキスト・教材 参考図書	介護総合演習・介護実習				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	第1段階(後期)実習準備			
	2	第1段階(後期)実習準備			
	3	第1段階(後期)実習準備			配属施設について概要を調べておく
	4	第1段階(後期)実習準備			
	5	第1段階(後期)実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。
	6	第1段階(後期)実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。
	7	第1段階(後期)実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。
	8	第1段階(後期)実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。
	9	第1段階(後期)実習準備			
	10	第1段階(後期)実習 帰校日指導			担当利用者の全体像を整理しておく
	11	第1段階(後期)実習 帰校日指導			担当利用者の全体像を整理しておく
	12	第1段階(後期)実習振り返り			
	13	第1段階(後期)実習振り返り			発表原稿・PP作成
	14	第1段階(後期)実習振り返り			発表原稿・PP作成
	15	第II段階実習準備			
	16	第II段階実習準備			配属施設の概要を調べておく
	17	第II段階実習準備			
	18	第II段階実習準備			
	19	第II段階実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。
	20	第II段階実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。
	21	第II段階実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。
	22	第II段階実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。
	23	第II段階実習準備			
	24	第II段階実習 帰校日指導			利用者の全体像の整理をしておく。
	25	第II段階実習 帰校日指導			利用者の全体像の整理をしておく。
26	第II段階実習 帰校日指導			利用者の全体像・課題の抽出をしておく。	

	27 第Ⅱ段階実習 帰校日指導	利用者の全体像・課題の抽出をしておく。					
	28 第Ⅱ段階実習振り返り						
評価方法	(1)授業中のレポート作成(2)実習前面接(態度・実習への意欲)(3)実習報告会(準備・発表)により評価を行う。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	○		○		30%
	報告会原稿・PP	○	○		○		50%
	身だしなみ・意欲・態度				○		20%
履修上の注意							

科目名	第 I 段階(後期)実習						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	大島・角屋・江下		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	福祉施設で介護福祉士として勤務(大島・江下) 看護師として病院・クリニック・ケアマネとして居 宅支援事業所勤務(角屋)		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	利用者との人間的ふれあいを通じて、コミュニケーション技術を学ぶ。 介護職員の業務内容を知る。 介護福祉の実践の場の1つである施設を体験的に理解し、基本的援助方法を学び利用者の生活全般を理解する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○	○	施設の概要を理解できる。	
	○	○	○	○	○	業務内容を理解できる。	
	○	○	○	○	○	実習の意義、目的について理解できる。	
	○	○	○	○	○	介護福祉士としての職業倫理、社会的役割を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日8時間×10日間 各実習先で実習。実習担当指導者、巡回教員による個別指導。				各領域において習得した知識・技術を統合する。	
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
11							
評価方法	評価項目は評価表に準ずる。 利用者理解・コミュニケーション・実習態度・基本技術・記録大項目。各小項目はA～E5段階評価。 施設点、教員点の合計が60点以下不合格。再実習の結果により再履修。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	施設評価	○	○	○	○	○	75%
	担当教員評価	○	○	○	○	○	25%
履修上の注意	100%出席をもって評価の対象となる。規定規則に定める時間数(3分の2以上)に満たない者については再実習となる。						

科目名	第Ⅱ段階実習						
科目名(英)							
単位数	3	時間数	120	担当者	大島・角屋・江下		
実施年度	2020	実施時期	後期	担当者実務経験	福祉施設で介護福祉士として勤務(大島・江下) 看護師として病院・クリニック・ケアマネとして居宅支援事業所勤務(角屋)		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	施設の運営・地域との関り、福祉サービスに対する理解を深めチームの一員として介護福祉士の役割を理解する。 特に「個別ケア」の重要性を理解する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○	○	施設の概要を理解できる。	
	○	○	○	○	○	業務内容を理解できる。	
	○	○	○	○	○	個別援助の必要性を理解できる。	
	○	○	○	○	○	実習を通して自分自身の課題を見つけることができる。	
○	○	○	○	○	介護福祉士としての職業倫理、社会的役割を理解できる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日8時間×15日間 各実習先で実習。実習担当指導者、巡回教員による個別指導。				各領域において習得した知識・技術を統合する。	
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	評価項目は評価表に準ずる。 基本技術・介護過程・記録大項目。各小項目はA～E5段階評価。 施設点、教員点の合計が60点以下不合格。再実習の結果により再履修。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	施設評価	○	○	○	○	○	75%
	担当教員評価	○	○	○	○	○	25%
履修上の注意	100%出席をもって評価の対象となる。規定規則に定める時間数(3分の2以上)に満たない者については再実習となる。						

科目名	発達と老化の理解						
科目名(英)	Human Development and Aging						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして居宅支援事業所勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	前期で学習した加齢に伴う心理的変化や身体的変化の特徴に加え、高齢者に多い疾患の基礎知識を習得することで、日常生活に及ぼす影響を考える。また健康寿命を延伸するための取り組みについて知り、疾病予防や合併症予防のための留意点について理解する。これらの知識から高齢者への全人間的な生活支援へつなげることを目的とした授業である。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					加齢による身体変化の特徴について説明することが出来る。	
	○					加齢による身体変化が及ぼす心理的影響について説明することが出来る。	
	○	○				高齢者に多い疾患の特徴と日常生活に注意点を説明出来る。	
		○		○		生活支援の場面において高齢者の心理的、身体的特徴へ配慮できる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」 成美堂出版「しくみがわかる からだの事典」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第5章 第1節	健康長寿に向けての健康			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	2	第5章 第2節	高齢者の症状・疾患の特徴①			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	3	第5章 第2節	高齢者の症状・疾患の特徴②			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	4	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点① 骨格系 筋系			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	5	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点② 脳 神経系			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	6	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③ 皮膚 感覚器系			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	7	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④ 循環器系			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	8	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤ 呼吸器系			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	9	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥ 消化器系			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	10	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦ 腎・泌尿器系			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	11	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑧ 内分泌・代謝系			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	12	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑨ 歯・口腔疾患			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	13	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑩ 悪性新生物・感染症			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	14	第5章 第3節	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑩ 精神疾患・その他			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
	15	第5章 第3節	保険医療職との連携			事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回以上実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 (4)出席状況には授業への参加態度(居眠り・私語・グループワークや発表の様子)。以上を下記の観点・割合で評価する。)成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				30%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	出席状況				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	認知症の理解 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	福祉施設で介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	認知症とは何かについて、脳のしくみと認知症の人の心理から理解する。また、認知症の中核症状、BPSD及び原因疾患とその特徴について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				認知症とは何かを脳のしくみから説明できる。	
	○	○				中核症状・BPSDについて、症状の説明ができる。	
	○	○				認知症の原因疾患とそれに伴う症状の説明ができる。	
	○	○				認知症により生じる生活障害をふまえた生活援助の展開ができる。	
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座13 認知症の理解 介護福祉士用語辞典						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	認知症とは何か①					
	2	認知症とは何か②					
	3	認知症の人の心理			教科書の該当範囲を読んでおく		
	4	中核症状①			教科書の該当範囲を読んでおく		
	5	中核症状②			教科書の該当範囲を読んでおく		
	6	生活障害(IADL・ADL・BPSD)			教科書の該当範囲を読んでおく		
	7	認知症の診断と重症度①			教科書の該当範囲を読んでおく		
	8	認知症の診断と重症度②			教科書の該当範囲を読んでおく		
	9	認知症の原因疾患①			教科書の該当範囲を読んでおく		
	10	認知症の原因疾患②			教科書の該当範囲を読んでおく		
	11	認知症の原因疾患③			教科書の該当範囲を読んでおく		
	12	練習問題①			練習問題の予習をしておくこと		
	13	練習問題②			練習問題の予習をしておくこと		
	14	試験対策①			今までの授業の復習をしておくこと		
15	試験対策②						
評価方法	(1)後期定期試験にて評価する。(2)授業内で確認テストを実施する。(3)ノート提出(プリントは整理させているか、ノート整理ができているか確認) 成績評価基準は、、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	確認テスト	○	○				30%
	ノート提出	○	○				20%
履修上の注意	確認テストは必ず受けること。授業中の居眠りは欠課とする。						

科目名	こころとからだのしくみⅡ①						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして居宅支援事業所勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	障害や加齢による心身の変化や病態を理解するための基盤として正常な人体における解剖生理学の知識を習得し、介護サービスを提供する際の根拠を理解する。この授業は介護を必要とする人々の増加、ニーズの多様化の中で、専門性の基礎となる。心理学や医学一般の知識と関連づけて、利用者の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		生活動作に関連してからだのしくみを説明できる。	
		○		○		心身の機能低下が生活動作に及ぼす影響について説明できる。	
		○		○		医療関係職種との連携・協力のポイントを説明できる。	
	○			○		生活動作に関連した代表的な疾患とその特徴について述べる事が出来る。	
	○		○		介護サービスの提供における安全への留意点をその根拠とともに説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	「介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ」中央法規 「しくみと病気がわかる からだの辞典」成美堂出版 「7訂介護福祉用語辞典」中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	身じたくに関連したしくみ : なぜ身じたくをとどのえるのか 毛髪・爪の構造と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 授業後もう一度学習内容に目を通しておく(0.5時間)	
	2	身じたくに関連したしくみ : 口腔の清潔のしくみ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 授業後もう一度学習内容に目を通しておく(0.5時間)	
	3	身じたくに関連したしくみ : 眼のしくみ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 授業後もう一度学習内容に目を通しておく(0.5時間)	
	4	身じたくに関連したしくみ : まとめ 確認テスト 移動に関連したしくみ : 移動のしくみ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時	
	5	移動に関連したしくみ : 心身の機能低下が移動に及ぼす影響① 褥瘡 廃用症候群				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 授業後もう一度学習内容に目を通しておく(0.5時間)	
	6	移動に関連したしくみ : 心身の機能低下が移動に及ぼす影響② 移動に影響を及ぼす疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 授業後もう一度学習内容に目を通しておく(0.5時間)	
	7	移動に関連したしくみ : 心身の機能低下が移動に及ぼす影響③ 福祉用具 利用者の変化の気づきと対応 単元テ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時	
	8	移動に関連したしくみ : 福祉機器を知る①福祉機器展 見学				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 授業後もう一度学習内容に目を通しておく(0.5時間)	
	9	移動に関連したしくみ : 福祉機器を知る②グループワーク ・ 発表準備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 授業後もう一度学習内容に目を通しておく(0.5時間)	
	10	移動に関連したしくみ : 福祉機器を知る③発表準備 ・ 発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 授業後もう一度学習内容に目を通しておく(0.5時間)	
	11	入浴のしくみ : 入浴・清潔保持のしくみ 入浴・清潔保持の意義について 皮膚のしくみ 発汗の				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 授業後もう一度学習内容に目を通しておく(0.5時間)	
	12	入浴のしくみ : 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 皮膚の症状について 身体機能が入浴に及ぼす影響・疾患での				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 授業後もう一度学習内容に目を通しておく(0.5時間)	
	13	入浴のしくみ : 変化の気づきと対応 入浴が身体に及ぼす影響・観察ポイント・医療との連				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時	
	14	まとめ				重要ポイントを再度確認するため、これまでのノート やプリント類を事前に整理しておくこと(1時間)	
15	後期試験対策				重要ポイントを再度確認するため、これまでのノート やプリント類を事前に整理しておくこと(1時間)		
評価方法	(1)授業の中で項目ごとに小テストを実施する。正答率80%未満であれば補講および再テストを実施する。 (2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)授業には積極的に参加すること 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				30%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	出席状況				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	医療的ケア(基本研修)					
科目名(英)						
単位数	3単位	時間数	51時間 (実時間)	担当者	角屋 佳代	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして居宅支援事業所勤務	
対象学科・学年	介護福祉科1年					
授業概要	介護福祉士として医療的ケアを実施するための基本研修修了を目的とした科目である。本講義では基本講義までを修了し、2年生での基本演習につなげる。授業では医療的ケアが必要なひとの心身の状態を理解し、医療的ケアの留意点や手順について理解する。					
授業形式	講義 ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
	目標					
	○					介護福祉士による医療的ケアが認められるようになった背景や求められる資質について述べる事が出来る
	○	○				医療的ケアに際して必要な医療職との連携について説明できる。
	○	○				安全な医療的ケアの取り組みについて説明できる。
	○		○			感染予防のための手洗い手順を理解し実施できる。
	○					健康状態を把握するための項目について述べる事ができる。
	○					呼吸のしくみとはたらき、呼吸困難をもたらす苦痛や障害、喀痰のためのケアについて説明できる。
	○					喀痰吸引について必要な物品、手順について説明できる。
	○	○				急変時の対応と事前対策について述べる事ができる。
○					消化器のしくみとはたらき、消化器の主な症状について述べる事ができる。	
○					経管栄養について必要な物品、手順について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	医療的ケア(メディカルフレンド社) こころとからだのしくみ(中央法規) しくみと病気がわかる からだの事典(成美堂出版)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション なぜ医療的ケアを学ぶのか			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	2	人間と社会/個人の尊厳と自立・医療の倫理・利用者や家族の気持ち 確認テスト			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後はレポート課題あり(0.5時間)	
	3	保健医療制度とチーム医療①健康医療・医行為に関する制度			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	4	保健医療制度とチーム医療②チーム医療と連携 安全な療養生活① 安全な実施の重要性			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	5	安全な療養生活②ヒヤリハットとアクシデント・事故が発生した場合の対応 確認テスト			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	6	安全な療養生活③救急蘇生法の手順と留意点 感染予防と清潔保持①感染予防・介護職員の感染予防			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	7	感染予防と清潔保持②療養環境の清潔・消毒法			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後はレポート課題あり(0.5時間)	
	8	健康状態の把握①健康状態を知る項目			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	9	健康状態の把握②急変状態について			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	10	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」①呼吸のしくみと働き 確認テスト			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	11	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」②いつもと違う呼吸状態			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	12	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」③器具と機材 清潔の保持			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	13	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」④人工呼吸器と吸引			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	14	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」⑤子どもの吸引			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	15	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」⑥利用者や家族の気持ち			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	16	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」⑦吸引によって生じる危険			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	17	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」⑧急変・事故発生時の対応			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	18	喀痰吸引の実施の手順と留意点① 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
	19	喀痰吸引の実施の手順と留意点②喀痰吸引(通常手順)			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)	
20	喀痰吸引の実施の手順と留意点③口腔・鼻腔内吸引(人工呼吸器装着)			事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)		

	21	喀痰吸引の実施の手順と留意点④気管カニューレ内吸引(人工呼吸器)	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	22	喀痰吸引の実施の手順と留意点⑤喀痰吸引に伴うケア	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	23	喀痰吸引の実施の手順と留意点⑥ 確認テスト	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	24	高齢者および障害児・者の「経管栄養」①消化器のしくみとはたらき	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	25	高齢者および障害児・者の「経管栄養」②消化器の主な症状	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	26	高齢者および障害児・者の「経管栄養」③経管栄養とは 確認テスト	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	27	高齢者および障害児・者の「経管栄養」④経管栄養の留意点	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	28	高齢者および障害児・者の「経管栄養」⑤必要なケア	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	29	高齢者および障害児・者の「経管栄養」⑥実施の報告及び記録	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	31	経管栄養の実施手順と留意点①経管栄養に用いる器具・器材のしくみ 清潔保持	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	31	経管栄養の実施手順と留意点②経鼻経管栄養 確認テスト	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	32	経管栄養の実施手順と留意点③胃ろう経管栄養	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	33	経管栄養の実施手順と留意点④演習 経鼻経管栄養	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
	34	経管栄養の実施手順と留意点⑤演習 胃ろう経管栄養	事前にテキストに目を通しておく(0.5時間) 授業後は学習内容を復習しておく(0.5時間)				
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回以上実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	確認テスト	◎	○				30%
	宿題・レポート	○	○				10%
	発表・作品						
	出席状況				○		10%
履修上の注意	全講義への出席が必要。確認テストでは9割以上の正答率が必要。9割に満たなければ再テストを繰り返し実施する。出席状況には授業態度も含まれる。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						